

# 事務局だより

第3号 平成25年4月22日  
岩手県学校保健会  
養護教諭部会事務局発行

長かった冬から、桜の蕾も少しずつ大きくなり、ようやく春の温かを感じる日が増えてきました。会員の皆さまは新年度も始まり、種々の健康診断、児童生徒対応でお忙しい毎日のことと思います。今回の事務局だよりは、第18回「全国養護教諭連絡協議会」の様子をお伝えいたします。シンポジストとして山田町立織笠小学校 村上貴美子先生からご発表をいただきました。



## 全国養護教諭連絡協議会第18回研究協議会より

### 1 全国養護教諭連絡協議会長 堀田 美枝子氏のあいさつより

今回の研究協議会のフォーラムでは、「時代の変化に対応した養護教諭の役割を迫る～養護教諭の専門性と役割とは～」をテーマにしている。震災から2年を迎えようとしているが、実際に各学校・地域で対応された実践を伺い、学校の危機管理体制の確立・整備、また養護教諭として保健室経営の基盤に危機管理の視点を具体的に位置づけ、心のケアの重要性をより明確化するための参考にさせていただきたい。

### 2 特別講演「日本人の忘れ物—寅さんに学ぶ—」

静岡理工科大学教授、ノースカロライナ州立大学併任教授 志村 史夫氏

日本人は、戦後の復興を遂げて物質的に豊かになり“衣食足りて礼節を知る”はずだったのに、現在は礼節も羞恥心も失ってしまった。フーテンの寅さんの得意な台詞に「お天道様は見ているぜ」がある。また、子どもの頃によく聞かされた「嘘をつくともんさまに舌を抜かれる」があるが、子どもの教育にこの言葉の復活が必要ではないか。今こそ、寅さんの言葉で日本人の忘れ物を取り戻そう！

「幸福な人生に」必要な「豊かさ」とは何か。寅さんの世界は血縁、職場縁、地縁を大切にしている三縁社会であり、みんなが幸せである。お金や健康は目的ではなく手段であり、私たちも物質的幸福感から精神的幸福へ価値観を変換させるべきであると話された。

### 3 基調講演「健康教育の推進と養護教諭の役割—学校保健の課題とその対応—」

文科省スポーツ・青少年局学校健康教育課 健康教育企画室健康教育調査官 岩崎 信子氏

中教審答申及び学校保健安全法により養護教諭の役割の明確化が図られたことから、平成22年に養護教諭の職務等に関する調査を行った。その結果を基に、「保健管理（救急処置、健康観察）」「保健教育」「健康相談」「保健室経営」「組織活動（学校保健委員会）」の各領域等における課題と対応について講演があった。そして、学校保健を推進する養護教諭は、学校保健安全法、答申をよく読み、法的根拠をもって実践をしてほしいと述べられた。参照：(財)日本学校保健会学校編 「保健の課題とその対応—養護教諭の職務に関する調査結果から—」

### 4 フォーラム「東日本大震災に学ぶ 養護教諭の専門性と役割とは」

コーディネーター 名古屋学芸大学大学院子どもケア研究科兼

名古屋学芸大学ヒューマンケア学部子どもケア学科教授 采女 智津江氏

「災害から2年が経過するので災害の実態や現状を把握し、近いうちに発生すると予測されている巨大地震に備えていくことが必要である。そこで、避難所となった学校の先生方の発表を通して養護教諭の専門性と役割について研究協議を深めていきたい。」

### シンポジスト 山田町立織笠小学校 養護教諭 村上 貴美子先生

震災後、避難所となった小学校の例を村上先生が発表。被害の大きかった織笠地区は、小学校の保健室を地域の保健室として開放し、教職員も学校に泊まり込み避難所運営の役割を担った。保健室は、救急処置、衛生管理と感染予防、子ども達や避難所の方々の心のケアを中心に活動する場となった。様々な医療チームが入ると、養護教諭が活動計画を立て、健康管理のコーディネーター役を担った。これらは学校が再開するまで続いたことなどが話された。そして、学校再開後からは、家や家族を失った子ども達に普通の生活に近づけるための授業の実施や、「朝の健康観察」を丁寧に行い、「ほけんだより」に辛い体験について自由に表現できる欄を設け、心のケアに重点を置くことを全職員で確認した。「生活実態調査」や「こころとからだの健康観察」を実施し、気になる児童は担任や養護教諭が健康相談を行っている。

今年度は、二学期になり、頭痛などの身体症状の訴えで保健室来室者が多くなり、「表現ワークシート」を活用しながら子ども達の心の状態を受け止め、少しでも前向きになれるよう関わっている。

村上先生は、養護教諭として「こどもと向き合うことの大切さ」から「養護教諭として何ができるのか、専門性・役割とは何か」と問い続けてきたと話された。

発表の終わりに、子ども達が1年間どのように生活していたのか、子ども達の何気ないつぶやき、笑顔の映像が歌声とともにスクリーンに映し出されると、参加者の涙は止まらなかった。

### シンポジスト 仙台市立高砂中学校 養護教諭 伊藤 香奈 先生

卒業式の準備中地震・津波で校庭が水没し、そのまま地域住民の避難所となった高砂中学校の伊藤先生が発表。被災後の生徒の心のケアとして安心・安全・有実感・遊び場の確保が必要だった。学校再開までは、健康観察、急性ストレス症状の早期発見、市教委から派遣された「心のケア支援チーム」との連携、新潟市から派遣された14名の養護教諭の応援により学校再開の準備ができた。学校再開からは、健康観察の強化、ストレス反応に対応する心のケア、安全教育の充実、問題行動の対応。6か月後から現在までは、子どもの気持ちに寄り添い、継続的な心のケアを続けている。復興に向けての取り組みとして、「高中魂」を合言葉に、様々な行事を通して絆を深めている。健康教育の推進として性の指導を通して自己肯定感を高める工夫を行っている。養護教諭の役割としては、健康観察と安心・安全の保障。児童生徒のレジリエンス（精神的回復力）を高めるために、養護教諭の視点をもって子ども達の心に寄り添うこと。生徒を支える教職員の健康管理も重要であると話された。

### シンポジスト 宮城県立石巻高等学校 養護教諭 千葉 久美子先生

震災後高台にある学校の周囲が水没し、孤立した石巻高等学校の千葉先生が発表。近くの病院が被災したために、高校の保健室に診療所が開設され、保健室の通常の機能とはかけ離れた避難者の「命を守る砦」として機能した。高校生自身、ボランティア活動することが心の支えになった。学校が再開してからは、できるだけ「日常」を取り戻すことを第一に対応し、心のケアとしては「見守ること」「寄り添うこと」を重点に活動したことが話された。栃木県の養護教諭の応援が有難かったとのことだった。

### 研究協議のまとめ 采女智津恵先生

自然災害後の困難な状況において、養護教諭の取り組みを検証し記録を残し積み重ねてきたことによって、子ども達のこころのケアに関する養護教諭の専門性と役割が明確化してきた。養護教諭として本災害の情報を共有し、今後の災害等の危機に対応できる方向性を見つけ具体化していくことが大切である。そして、これは特別なことではなく、「いつも行っていることを丁寧に行っていくことである。」

(文責:下小路中学校 鎌田淳子 研究副部長)

お知らせ



平成25年度も様々な研修会・研究大会が企画されておりますので日程をお知らせ致します。

- 平成25年度 第46回東北学校保健大会 平成25年8月6・7日(火・水) 於盛岡市
- 平成25年度 全国養護教諭研究大会 平成25年8月8・9日(木・金) 於山梨県